

# 中国地方の 明日をひらく **新しい力** アツくやさしく

衆議院議員

文部科学委員会、災害対策特別委員会、憲法審査会

よし のぶ  
**大平喜信**

2014年12月の総選挙で、比例中国ブロック28万余のご支持をいただき、初当選をさせていただきました。中国地方では中林よし子さんに続く11年ぶりの議席回復となります。

広島で生まれ育ち、広島で活動してきた、日本共産党初の国会議員として、「平和を願うヒロシマの心を国会へ」をモットーに、「核兵器のない世界を」「戦争する国づくりは許さない」「憲法9条を守り生かす」の実現へ全力でがんばります。

30代、子育て真っ最中、1児の父親でもあります。子どもたちの笑顔があふれる、勉強がよくわかり、安心して安全にすごしていける教育環境をつくっていくために奮闘します。

中国地方は、中山間地が多く、人口減少・地方衰退をくい止め転換していく課題が急務であるとともに、米軍岩国基地、低空飛行訓練、島根原発・上関原発など重要な国政課題もかかえた地域です。また、大きな災害が毎年起きています。

私は中国5県を駆けめぐり、みなさんの実態、要望をしっかり受けとめ、まっすぐ国政に届けながら、一歩ずつでも地域の要求を実現していくために全力でがんばります。ぜひ、みなさんの声をお聞かせください。

1978年2月、広島市出身。広島市立舟入高校、広島大学学校教育学部卒。民青同盟広島県委員長、同中央常任委員、日本共産党広島県常任委員など歴任。趣味は山歩き、野球観戦、弁当作り。家族は妻と一男。

「戦争する国づくり」「は許しません！」

## ●これまでの活動

### 【おいたちと入党にいたるまで】



ぜんそくやアレルギーなどがあり、体が弱く、よく熱をだしていた幼少時代でしたが、幼稚園で毎日乾布摩擦をし、町内会のソフトボールチームに加わって走りまわったおかげで、元気に育ちました。

中学では野球部に入るとともに生徒会長も務めました。高校でも引き続き野球部に入り、1番・センターでキャプテンも務めました。大学では、勉学とバイトのかたわらで、軽音楽サークルに入り、ボーカルやベースなどを担当しました。

実家では、母親が小さなお好み焼き屋を営んでいましたが、あまり裕福な家庭ではなく、3つ上の兄も私も、必死にバイトをし、大学では授業料免除の制度も利用してなんとか卒業することができました。

しかし、父や母や兄、近所のおじちゃん、おばちゃん、学校の先生など身近にいた方たちが、たいへん世話好きで、自分のことは後にしてでも「世のため人のため」に動く——そんな姿を目の当たりにしながら育ったおかげで、貧乏でも希望を持って人生を歩むことができました。

そして、そんな方たちの多くが日本共産党の党员であることを知り、大学入学直前の私に「おかしいことには声をあげよう」「社会はかわるし、かえられる」と語ってくれたことに胸をうたれ、自分もそんな生き方がしたいと入党を決意しました。



### 【大学時代】

大学時代は、バイトにあけくねしながら「自分はどう生きるのか」と模索し、マルクスなどの思想家の本にふれたり、自転車で旅に出たり、アコースティックギターを持って路上ライブをしたりしながら、4年間をすごしました。

教育実習などを通じて、子どもたちとふれあい、教壇にもたつ中で、すべての子どもたちが勉強がよくわかり、安心して安全に過ごしていけるようになるためには、教育環境の改善も重要だと感じ、政治に関わっていく、働きかけていく大事さを学びました。

そして、卒業後の進路は悩みに悩んだ末に、同世代の仲間たちと力をあわせて政治や社会をよりよい方向へ変えていく、その活動を仕事にできるということに魅かれ、学生時代から活動をしていた、民青同盟に勤めることを決意しました。



### 【民青時代】

民青同盟では、2000～2010年まで10年間、仕事をしました。

2001年にアメリカで同時多発テロが起こり、それへの報復としてアメリカがアフガニスタンへの空爆をおこない、イラク戦争へと続いていくなか、「テロも戦争も許さない」と連日、繁華街での署名活動やピースウォークにとりくみました。

また、被爆地ヒロシマでいつかんとりくんできたのは、核兵器のない世界をめざす活動です。毎年8月におこなわれる原水爆禁止世界大会で、「被爆の実相を継承しよう」と、全国から集まる青年たちに被爆者のうたえを聞いてもらい、ともに交流をする集会を主催してきました。

民青同盟中央委員会に勤めてからは(2006年～)、主に高校生分野で活動をしてきました。高校生たちの勉強や進路、生き方や人間関係をめぐるさまざまな模索や願いによりそい、ともに歩いていくなかで、た



くさんのことを教えられました。

何より、一人ひとりの実態や思いを「わかったもの」とせず、じっくりとその相手の話に耳を傾け、その丸ごとの姿をとらえることが大事であるということを学びました。



### 【党広島県委員会時代】



2010年から5年間、日本共産党広島県委員会に勤め、青年学生部で活動をしました。大学生たちとともに、世界一高い日本の大学の学費値下げを求める運動

にとりくみ、署名を持って毎年、国会・省庁要請もおこないました。

「ノルマが達成できなければ殴られたあげく、成果が上がるまで帰してもらえない」など、法違反であるだけでなく、人権すらふみにじるようなブラック企業の横暴をなくすため、青年たちとともに「働く青年実態アンケート」を集め、県や市の関係機関に告発し、改善を求める活動にもとりくんできました。

2014年8月に発生した広島市北部の土砂災害で、私たちはただちに土砂災害対策本部を立ち上げ、被災地のお宅一軒一軒をうかがい、お見舞いを申し上げながら、ご要望を聞き取る活動にとりくんできました。1カ月間で2449軒を訪問し、寄せられた声をまとめて広島市や県、国に届け、改善をもとめる活動もおこなってきました。

国政選挙には、2010年参院選、2012年衆院選でいずれも比例代表選挙に立候補し、今回3度目の挑戦で初当選をさせていただきました。

